

みんなとともに笑顔いっぱい — 「101」 新たなるステージへ —



みんなとともに



校長にはフィードバックがなかなかありません。全校集会でよい話をしたと思っても、誰もほめてはくれません。先日の朝、学区内を歩いていると、ある保護者の方が「『みんなとともに』を楽しみにしています」と声をかけてくださいました。校長の書く「学校だより」を待ってくださっていると、ありがたいものです。毎週綱渡り状態ですが、今週も何とか出来上がりました。ご覧ください。



「週末作文」 その2

各学年での週末作文の実践が始まりました。今回は、5年生の「意見文」を紹介します。

【お題】「宿題はあった方がよいか、ない方がよいか。」

◇「宿題はあった方がよい」という立場で書いた意見文

柳沼 夏恋

わたしは、宿題はあったほうがよいと思います。あったほうがよいと思う理由は二つあります。

一つ目は、「自分のためになるから」です。中学、高校と、これから勉強することが沢山あります。勉強したことを身につけるために、宿題は必要だと思います。

二つ目は、「毎日の勉強の習慣が身に付くから」です。毎日宿題をやっていると、勉強の習慣が身に付いて、計画的に勉強ができるようになります。

宿題だけでなく、自主勉も毎日取り組んでいき、計画的に勉強したり、学習の習慣をしっかり身につけたいです。

◇「宿題はない方がよい」という立場で書いた意見文

高木 美里

わたしは、宿題はないほうがよいと思います。

理由は、やってこない人がいることと、自分で自主学習をすることで身に付けて自分のためになると思ったからです。自分からしっかり学習すれば、手伝いや、もちろん勉強、その他のことも、自分からできるようになると思いました。

わたしは、宿題はなくてもよいと思います。自分から行動できるようになりたいです。

* もちろん、どちらの立場が正しいということはありません。自分の立場を明確にして、理由をつけて述べることができれば、OKです。また、「はじめ（立場の明確化）—なか（理由づけ）—おわり（主張・思い）」という「型」を意識して書きます。どちらもよくできた意見文ですね。

次に、ユニークな視点から書いた意見文を紹介します。「辞書」で意味を調べるという発想がステキです。

鈴木 雄仁

みなさんは、宿題があった方がよいですか。ぼくは、あった方がよいと思います。

理由は、まず辞典で「宿題」という意味を調べてみると、「宿題」の意味は二つありました。一つ目は、「家庭で学習したり仕上げたりする」という意味と、二つ目は、「取り組みや解決が今後持ちこされる」という意味です。ぼくは、宿題をやっていないと勉強がおくれ、分からなくなってしまう、今後こうかいるという意味なのかなと思いました。

このことのように、宿題はしっかり家庭で勉強できるので、自分のためになると思いました。そして、自主学習も自分のためになるので宿題に入るのかなと思いました。

【校長のつぶやき】 その45 「『エール』のある場面」

今回の朝ドラは、福島市出身の古関裕而がモデル（役名は古山裕一）である。福島ゆかりのドラマということで、その日の放送を録画しておき、家でリラックスしながら見ている。

さて、少し前になるが、裕一の妻である“音”が、音楽教室を開く場面があった。そこに、ある男の子が参加するのだが、彼は歌うときに、正しい音程を取ることができない。一緒に歌っている子たちから非難され、やめようかと悩む。そのとき、裕一は彼に“ハーモニカ”を教える。音楽教室にハーモニカの演奏で参加するようになった彼は、ほかの子からも称賛されるようになる。居場所を見つけた彼は、その後も楽しく音楽教室に通うのであった。

「みんなと同じ」は、時に人を苦しめる。人は「凸凹」があって、当たり前。「凹」に目を向けるよりも「凸」に目を向けた方が、うまくいくことも多い。「凸凹」は「個性」である、という考え方が学校に浸透したときに、真に「みんなが笑顔」を実現できるのではないかと「エール」を見ながら考えた。（と、カッコいいことを書いているが、きょうも子どもの「凹」を見付けては「こらっ」と指導している私である。）